

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和5年度農作物病虫害発生予察情報について

令和5年度農作物病虫害発生予報第15号を発表したので送付します。

令和5年度農作物病虫害発生予報第15号

令和6年3月4日
徳島県

I. 果樹
果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 昨年の予察灯誘殺数は、勝浦町では、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシともに、10月まで、平年に比べて少なく推移したが、11月は平年に比べて多く誘殺された。
また、上板町では、ツヤアオカメムシは、8月まで平年に比べて少なく推移したが、10月以降は平年に比べて多く誘殺された。チャバネアオカメムシは平年に比べて少なく推移した(表1)。

表1 勝浦町及び上板町における各種カメムシの予察灯への誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	勝浦町			上板町		
	2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
4	1	8	9	2	167	32
5	5	14	294	13	453	246
6	7	20	404	7	184	109
7	19	145	289	1	182	100
8	236	35	734	40	68	127
9	177	108	559	192	141	244
10	92	35	573	503	47	271
11	121	7	35	309	2	20

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	勝浦町			上板町		
	2023年	2022年	平年	2022年	2022年	平年
4	1	24	5	1	253	30
5	5	68	111	13	534	112
6	0	560	85	9	710	123
7	6	2827	322	6	4126	591
8	343	1921	931	164	500	368
9	355	785	854	252	113	391
10	33	79	319	1	20	83
11	36	1	1	4	3	0

- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、10地点で越冬を確認した。越冬成虫数は15.7頭/m²であり、平年(2.6頭/m²)に比べて高い越冬密度で、前年(成虫確認地点数は6地点、越冬成虫数は0.6頭/m²)に比べて高い越冬密度であった。
- (3) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

II. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が14.3%、発病度が0.8)。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないよう十分に換気を行う。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行う。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病葉率が0.8%と、平年(10.9%、0.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病度が0.5と、平年(1.3%、0.1)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 病斑は主に葉裏に形成されるので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)(11月1日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(50.3%)並の発生であるが、寄生葉率は19.5%と、平年(3.2%)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少なく)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が13.3%、発病果率が0.2%)。
- (2)高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が20℃位の低温で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないよう注意する。
- (2)朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3)発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (5)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少なく)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が9.3%、発病葉率が0.2%)
- (2)高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

- (1)2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が83.3%と、平年(52.6%)に比べて高く、発病葉率は10.8%と、平年(6.8%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないよう注意する。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。なお、本県ではSDHI剤のボスカリド剤及びペンチオピラド剤で耐性菌が確認されている。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が3.1%、寄生葉率が0.0%)
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%と、平年(30.0%)に比べてやや低く、寄生葉率は0.2%と、平年(2.7%)に比べて低い。なお、被害果は認めていない(平年同時期は被害果率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (11月1日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が66.7%と、平年(47.1%)に比べてやや高く、寄生葉率は30.7%と、平年(6.9%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.6%、寄生葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春キュウリ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%と、平年(35.6%)並の発生であるが、発病葉率は1.1%と、平年(8.0%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬剤散布は、葉裏を重点的に行う。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%と、平年(51.1%)に比べてやや低く、発病葉率は0.6%と、平年(5.1%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

褐斑病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、発病葉率が0.1%と、平年(44.4%、6.9%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 肥料切れや窒素過多などは発病を助長するので、肥培管理に注意する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。なお、本県では、アゾキシストロビン剤、ボスカリド剤、ジエトフェンカルブ・プロシミドン剤に対する耐性菌が確認されている。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が8.9%、発病果率が0.3%)。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位の低温で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないよう注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が8.9%、寄生葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が26.7%、寄生葉率が2.4%、被害果率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%と、平年(12.2%)並の発生であるが、寄生葉率は1.3%と、平年(0.4%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報の内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(9.1%)に比べてやや高いが、発病度は0.2と、平年(0.5)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 抵抗性品種でも突然発生することがあるので、発病好適時の栽培では、薬剤の予防散布を行う。
- (3) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (5) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%と、平年(35.0%)に比べてやや低いが、1株当たり寄生虫数は0.0頭と、平年(0.1頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.1%、発病果率が0.1%と、平年(5.1%、0.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が3.6%、発病葉率が0.1%)。なお、発病果も認めていない(平年同時期は発病果率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が15.4%と、平年(21.7%)並の発生であるが、寄生株率は1.5%と、平年(3.8%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が35.7%と、平年(62.3%)に比べてやや低く、寄生葉率は3.9%と、平年(12.7%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、寄生花率が2.5%と、平年(18.4%、0.7%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が2月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

Ⅲ. その他

1. 施設栽培において暖房機の最低気温の設定値を下げ過ぎると、低温性病害の発生を著しく助長する恐れがあるので、注意する。
2. 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。